

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 3 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572213734号
法人名	ユウゲンガイシャ 有限会社 シャトル
事業所名	グループホームのぞみ
所在地	三種町鹿渡字東二本柳48-9 (電話) 0185-72-2286
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成22年2月17日

【情報提供票より】 (平成22年1月31日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 (常勤 7 人 非常勤 2 人 常勤換算 6.2 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 80 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿渡内科医院、秋田厚生連湖東病院、医療法人能代歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「笑顔に満ち溢れた環境を創り出す優しい心遣い」を理念に掲げ、利用者が自然と笑顔になり、安心して穏やかに生活できる環境づくりを具体的な方針としている。  
職員は利用者の意向や考えを見逃さず感じ取るよう努め、自宅のように暮らし続けられるための柔軟な支援を心がけており、自己管理しながら毎日果物を食べる方や入浴後に晩酌する方など、利用者及び家族の意向に沿って比較的自由に生活している。  
また、3か月毎に職員一人ひとりの個人目標を設定し、法人代表者とも面談しながら達成をめざすなど、組織的に職員の目標管理とスキルアップに努めている。  
事業所は駅向いの住宅街にあり、近隣住民など比較的人通りが多いため、地域の福祉拠点としてニーズ把握に努め、そこから地域貢献など今後の取り組みにつなげてほしい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	行政とメール等で連絡を取り合うなど連携が深まり、「のぞみだより」の定期的な発行や系列事業所の栄養士による栄養チェックなど、前回評価結果を基に改善につなげている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	評価の意義や目的を職員に伝え、職員間で項目を分担しながら自己評価に取り組み、外部評価結果に基づいて改善計画を作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議では事業所の取り組み状況を報告し、地域や関係機関との関わりについて意見交換しているが、今後は定期的な開催に努め、外部評価結果や改善計画を基に具体的な取り組みにつなげるなど、地域に開かれた事業所として積極的に外部の意見を取り入れてほしい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	「相談・質問記録簿」に家族からの相談や要望を記載し、職員会議で対策を検討しており、利用者及び家族に対する接遇の改善や居室の温度設定、毎日果物を食べられるよう配慮するなど、できる限り家族の要望に沿って支援している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	駅舎の交流スペースや利用者の馴染みの商店に買い物に出かけ、町民際や近隣福祉施設の祭りなどにも参加して地域との交流を深めている。 また、地域の方のボランティア訪問や近隣住民による利用者の見守り、避難訓練への住民参加など、地域の一員として理解と協力が得られている。
重点項目④		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
<b>1. 理念と共有</b>								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔」を理念に掲げ笑顔が自然に出てくる環境創り、利用者の安心、穏やかな生活の支援を具体的な方針としており必要に応じて理念を見直している。			「笑顔に満ち溢れた環境を創り出す優しい心遣い」を理念に掲げ、利用者の笑顔、安心、穏やかな生活の環境づくりを具体的な方針としている。	○	利用者と地域との関わりについても理念に盛り込み、地域密着型事業所として求められる役割や機能を職員と共に検討してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で考えた「笑顔」の理念を分かり易く具体化して事業所内に提示し、ミーティングなどでケアに関する気付きを確認しながら意思統一を図っている。			理念を分かりやすく具体化した方針を事業所内に掲示し、毎月のミーティングで確認し合うなど、理念に基づいたケアの共有に努めている。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者が地域にあるなじみの床屋を利用してし、懐かしい話をしたり、職員と一対一で外出して買い物したりしている。生活した地域を希望があれば行ったりもしている。					
<b>2. 地域との支えあい</b>								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	洗濯物を干す為外に出た時には、近隣住民と挨拶したり、事業所周りに草むしり等は、一緒に利用者や世間話をたのしみながら行なう。定期的に孫さんを連れて遊びに来て下さり利用者と一緒に時間を過ごされる時間を持たせている。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の駅舎訪問、近隣福祉施設の納涼祭ほか、町民祭には、利用者が数カ月かけて作った作品を出展したりと積極的に参加している。事業所の行事にも近隣住民を招いたりして交流している。			地域の方がボランティアで紙芝居を読みに来たり、孫を連れて遊びに来るほか、近隣縫製工場の犬との触れ合いを通じて交流している。また、駅舎の交流スペースや町民祭、近隣福祉施設の祭りなどに出かけているほか、馴染みの商店での買い物など日常的に地域と関わる機会づくりに努めている。		
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	琴、民謡、日舞等のボランティアを受け入れ外出の機会の少ない地域の高齢者の方と利用者と一緒に楽しんでいただく機会を提供している。					
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間で項目を分担しながら自己評価を行ないそれを管理者がまとめて作成している。評価結果は、ミーティングで報告し改善に向けての具体的な検討をしながら実践につなげている。			職員間で項目を分担しながら自己評価に取り組み、その結果を管理者がまとめている。また、前回評価結果を基に改善計画を作成し、ミーティングで検討しながら改善につなげている。	○	項目を分担することで職員個々の主観が反映される可能性も考えられるため、できる限り職員一人ひとりが全項目に取り組むなど、評価結果に客観性を持たせるよう自己評価の手法を検討してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い事業所運営や、取り組み状況を報告し意見交換して、サービスの向上に活かすよう努めている。			運営推進会議では事業所の取り組みを報告しているほか、近隣住民との関りを含め地域との連携、協力について意見交換し、運営に生かすよう努めている。	○	地域に開かれた事業所運営及びサービス提供のため、定期的に開催して外部評価結果や改善計画についても検討するなど、外部の方の意見を反映させながら具体的な取り組みにつなげてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当と事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を連絡等して行き来しサービスの向上に努めている。電子メールでの情報交換等の連携も取れている。			生活保護や権利擁護事業に関する個別ケースを相談し、メール等で連絡をとりながら支援している。 また、介護認定の更新時には利用者とともに訪問するなど、前回評価結果を受けて関係づくりに努めている。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者2名地域福祉権利擁護事業を活用しているなど関係機関との連携を図っている。必要に応じて事業所に電話連絡、報告を密に行っている。全職員も勉強会等行い把握できている。					
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修を受け事業所内で勉強会を開催、事例を取り入れて身体的虐待、言葉での虐待防止に関する正しい知識を全職員が身に付けている。					
<b>4. 理念を実践するための体制</b>								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明に記載している内容について十分な説明をして同意を得ている。退所となる場合は関係機関と連携を図り利用者、家族の不安なよう支援している。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室等で各個人で職員と会話を通して意見、不満、苦情を言えるようコミュニケーションを図っている。家族の面会時居室で家族と2人きりで会話するようにしている。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	春夏秋冬と年4回定期的に「のぞみたより」を発行している。また利用者一人一人の状況を詳しく伝えたり、職員の異動時には連絡している。おたよりの他にも面会時に状況報告等している。			前回評価結果を受けて事業所の広報「のぞみたより」を年4回季節毎に発行し、事業所全体の状況を知らせている。 また、面会時に利用者の様子を伝えているほか、個別の便りに写真を添えて情報提供に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に要望箱や苦情箱を設置や、運営適正化委員会のパンフレット等を配置してたり、苦情等への対応体制を整えている。また面会時に家族の要望等ない言いやすい雰囲気家族と意見交換している。			要望箱や苦情箱を設置し、たよりを増やして情報提供を充実させるなど、家族が相談し、意見を述べやすい環境づくりに努めている。 また、些細な事でも「相談・質問記録簿」に記載し、要望等については職員会議等で対応策を検討し、共有しながら改善につなげている。		
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見が出たときは管理者会議で懸案事項として提出している。又代表取締役が、各職員と個人面談等行い意見交換の場を設けている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	シフト作成前月に職員は希望をだしてもらっている。又利用者の状況変化に対応するようシフト交換や、時間帯の調整を行っている。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と面接を行い異動時に職員のストレスにならないよう配慮している。利用者へは異動する職員や、管理者が説明し理解していただけるよう配慮している。又元職員に会いたいときは利用者が面会できるよう配慮している。			系列事業所間での異動はあるが、異動時には職員本人から利用者に説明して理解を得ており、異動後も利用者にも面会するなど配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て職員一人一人の目標や、希望、評価、資格取得等一人一人のスキルに合わせて研修会に参加している。又研修後は、復命書を作成し、会議や内部研修を通じて研修成果を共有している。			事業所の研修計画に基づき、職員の希望を踏まえて外部研修への参加を促進しているほか、系列事業所の看護師を講師とするなど、テーマを決めて法人全体で内部研修を実施している。 また、3か月毎に職員一人ひとりの個人目標を代表者とも面談しながら設定し、組織的に職員の資質向上に努めている。	○	経験や習熟度など段階に応じた研修機会を計画的に確保するため、職員の個人目標や希望等を反映させ、事業所の内部研修を含めた年間研修計画に基づいてスキルアップにつなげてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の事業所と会議や、研修など交流を図っている。又、他法人事業所と職員同士も行事参加時に終了後意見交換等行いサービスの質の向上に取り組んでいる。			県・圏域の連絡協議会に加入し、他事業所の利用者及び職員と互いに訪問して交流しているほか、系列事業所とも行事などを通じて交流している。		
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みなどに対して相談できる環境がありアドバイスしている。職員間でも自由に相談できる関係を築いている。ストレスを溜め込んでいる職員には、十分な休みを提供しリフレッシュして頂いている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持った働き続ける為には、職員の希望の勤務も取り入れて、シフトを作成している。					
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>								
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一人一人とコミュニケーションをとる時間を作り利用者と同じ目線で話しを聞く事を心掛けている。不安な事等もそれとなく普段の会話の中から聞き取れるように傾聴している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される方の家族と信頼関係を築く為に電話をしたり、面会時にはお話をする機会を多くしている。又、気軽に相談できる環境を作るように努めている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、本人、家族の要望等伺い何が必要かを見極め迅速に対応している。又他のサービス等も含めた対応に努めている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用者も職員も同じ地域である為違和感なく利用して頂けるよう家族、職員、ケアマネに相談し見学などを行いながら事業所に馴染めるよう工夫している。利用当日等精神的な不安の軽減に努めている。			事前に自宅訪問して情報収集したり、事業所の見学で雰囲気を体感してもらうなど、利用者が違和感なく、納得して利用できるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという認識を職員が共有し、男性職員が台所に立つと利用者が手伝ってくれるなど、どちらかと言うと利用者主体で学び支え合う関係ができている。			利用者の経験から漬物の漬け方や干柿づくり、畑での肥料の巻き方、裁縫の仕方など様々な場面で職員が学んでいる。 また、利用者は人生の先輩であるとの共通認識のもと、生活の知恵や物事の考え方を支援に生かしている。		
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	訴え時職員の共感、受容し家族が面会に来られた際には本人と一緒に家族に伝えたり関係を良くし遠方に住んでいる家族には、電話や、葉書で思いを伝えている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回の面会や、随時の面会時は、本人と居室にて、お茶を頂きながら、親子、親族、友人等のお話を心いくまでお話しできるよう支援している。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天気の良い日は本人が大切にしてきた馴染みの所へドライブに行ったり家族と連絡を取り合い馴染みの方が面会に来てくれるような支援をしている。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に職員が利用者の中に入りコミュニケーションを図り一人一人が孤立しないよう良い関係を築いて頂けるよう努めている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も継続的に関わりを必要とする家族には、電話での相談や、会ってお話しをする機会を持つようにして本人、家族との付き合いを大切にしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
<b>1. 一人ひとりの把握</b>								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様がどこで誰とどのように暮らすことが最善であるか家族を交えて検討している。利用者様の様子から何を考え行動しようとしているか理解するように努め臨機応変に対応するよう心掛けている。			利用者が笑顔で暮らせるよう細やかな情報収集に努め、支援方法を家族を交えて検討している。また、利用者の言動から思いを理解し、状況に応じて柔軟に支援するよう努めている。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族から生活歴や、暮らし方を聞いて、本人が、生き生きとホームで、生活できるように寄り添い手助けするよう努めている。					
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の体調や意向に配慮している。その時の状態や気持ちに沿って柔軟に支援している。					
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が、利用者及び家族の意向を含めてアセスメントし、職員全体で意見交換しながら具体的に計画を作成している。			利用者及び家族の意向を含めて計画作成担当者がアセスメントし、毎月のミーティングでカンファレンスのうえ具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の様式を使いやすいよう変更した事によりモニタリングを容易にし見直しがスムーズに行なわれている。利用者に状態変化や家族の意向を確認しながら3ヶ月に一度見直している。			以前に介護計画書の様式を見直したことで、3か月毎のモニタリングからスムーズな定期見直しにつながっており、状態変化に応じてカンファレンスしながら随時に見直している。		
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有が必要なので簡潔に記録し必要な情報は漏らさず、漠然とした事も記録している。月一回のケースカンファレンスをしている。					
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者及び家族の状況に応じ通院したり要望に応じたり、家族の宿泊などに柔軟に支援している。必要に応じて系列事業所の看護師と連携体制があるほか重度の方の入浴も系列事業所などと連携と取っている。			地域内に系列事業所や短期入所事業所があるため、マイクロバスの使用や重度の方の入浴など互いの機能を共有している。また、利用者及び家族の状況に応じて通院を支援し、系列事業所の看護師とも連携している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	本人の意向を優先して医療機関とは日頃より連絡を取り合いホームの状況を説明し支援している。民生委員や、ボランティアもホームに来てくれる。消防とも連携を図っている。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の居宅介護支援事業所とも連携を図っていて、他のサービスについての相談等行っている。本人や、家族の意向に応じて対応している。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業や生活受給者など定期的に連携情報提供、助言、通帳金銭管理をして協働している。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のほか利用者のかかりつけ医による受診や主治医による週2回の往診など連携がとれている。又連携している看護師から必要に応じて指導助言を頂いている。管理者が歯科衛生士の為口腔ケアにも力を入れている。			癌を早期発見して完治したケースがあり、利用者のかかりつけ医による受診や週2回の往診のほか、協力医とも連携しながら医療面の対応を充実させている。 また、管理者が歯科衛生士のため口腔ケアに力を入れており、系列事業所の看護師からも助言を得ている。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療機関の認知症に知見の深い医師や関係機関の有識者に助言を頂ける体制となっている。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同事業所の看護師と連携を図り勉強会を行ったり、主治医の週2回の往診時や、随時電話連絡で、日常の健康管理や必要に応じては検診や受診等の医療活用の支援を行っている。					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時から経過を家族や、医療機関に随時伺い早期退院ができるよう対応している。入院時の担当看護師とも密に連携を図り、退院できる相談している。入院病棟にもこまめに職員が面会に行き精神面のメンタルも心がけ退院できるよう利用者様に支援している。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者及び家族の意向を踏まえ主治医、総合病院と、家族と連携を取りながら利用者の安心した生活を支援できるよう連携を図り対応している。又職員の質の向上のため勉強会等行っている。			利用者の状態に応じて、かかりつけ医や協力医、家族と相談しながら支援方針を検討しており、利用時に説明のうえ同意を得ている。	○	利用者が重度化してきているため、事業所での対応の限界とケア方針を明確にし、利用者及び家族が安心して利用できる体制づくりに努めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	計画作成担当者及び家族の意向を含めてアセスメントし、職員全体で意見交換しながら具体的に計画を作成している。現在は重度化や、終末期の方がない為、今後の為に職員間で勉強会等は行なっている。						
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	契約時に重要事項や、契約の解除について十分説明し同意を得ている。退所となる際は、関係機関と連携を図り、退所される方が安心して利用できるよう最後まで支援している。						
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>									
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>									
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>									
	20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時の声掛けや対応に配慮し不適切な言動がないよう勉強会を行ない会話においても否定せず受容するよう心掛けている。又個人情報に関する書類は事務所の書庫に保管し別の部屋で記録するなど配慮している。広報への情報掲示については書面や口頭で同意を得ている。			勉強会やミーティングで利用者に配慮した排泄時の声かけや対応を確認し、不適切な言動がないよう意識の向上に努めている。 また、個人の記録は事務所内の書庫に保管し、利用者の写真を飾る場合には家族の同意を求めている。		
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者がどのように暮らす事が最善であるかを家族を交えて検討している。そのため利用者の様子から何を考え行動しようとしているかを理解できるよう努め臨機応変に対応するようにしている。						
	21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や意向に配慮し往診日以外午後から娘さんと帰宅し、短時間でも家で過ごし安心する方や、入浴後の晩酌する方、外へ気分次第で散歩に出掛けたりする方などその時の状況や気持ちに沿って柔軟に支援している。			食事をゆっくり食べる方や、短時間でも一時帰宅して家で過ごす方、入浴後に晩酌する方や一日にリンゴを一個食べる方など、利用者及び家族の意向に沿って柔軟に支援している。	○	りんごを食べる方が比較的安全な果物ナイフを自己管理しているが、利用者の認知症の進行などで事故につながることも考えられるため、リスクマネジメントの視点で対応方法を工夫してほしい。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>									
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む理容室へ行ったり、出張美容室を活用したりしている。又家族の希望で家族と一緒に理容室へ出かける離利用者もいる。						
	22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はあるが利用者と相談しながら変更する事もあり、ハタハタや山菜など季節の食材、取れたての魚など使用している。また、職員と利用者が食事づくりから共に関わり、一連の流れを通して楽しい雰囲気づくりに努めている。			利用者の嗜好や季節に応じて食材を変え、利用者も調理に関わりながら楽しい雰囲気づくりに努めている。 また、利用者の視界に食べ物を寄せるなどして食事を促しているほか、外食などにも出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を好まれる方には、主治医の指示のもと晩酌の支援を行っている。居室にておやつを食べられる方には、買い物時一緒に買い物に出かけ、本人の好みの物を購入したりしている。利用者の好みを毎日の食事、おやつ等で、良く観察、記録し一人一人に合わせて嗜好にそうよう心掛けている。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	声掛けトイレ誘導など、一人一人の排泄パターンの応じて対応している。毎回の排泄状況や、食事、水分摂取状況など、把握、観察、記録しながら対応している。便秘予防の水分補にも力を入れている。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	脱衣場の配置を変え、車椅子でも広い空間をとれるよう入浴しやすい環境を整備している。入浴を拒む方にも声掛けの工夫や、状況に応じてシャワー浴や、部分浴、清拭等清潔保持を行なっている。また、入浴日以外でも利用者の入浴希望があると、対応できるようにしている。			週2回入浴を基本としているが、希望の曜日や時間帯にも対応するよう努めており、入浴を拒む方には家族からの声かけなどで工夫しながら促している。 また、同性介助に関して意思を確認し、足湯などで快適な入浴を支援している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動時間をレクや、散歩、体操等工夫したり、眠れない時は職員とお茶を飲みながら会話し、気分を落ち着かせるなど、利用者の状況に応じて柔軟に対応している。主治医とも密に報告連絡行い、指示を頂いている。					
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事や、畑作り、プランターなど利用者の経験や知恵を活かせる場面をつくり、昔を振り返りながら張り合いを持てる生活を支援している。また大人の塗り絵を手がけてプレゼントしたりしている。気晴らしには、晩酌するなど喜びにもつながっている。			調理や食器洗い、茶碗ふきなどの片付け、洗濯や畑作業など利用者の生活経験や知恵を生かしながら取り組んでいる。 また、ぬり絵や習字、晩酌や外出などそれぞれに趣味活動や気分転換できるように支援している。	○	利用者の重度化に伴い、活動への意欲が低下しつつあるため、生きがいや張り合いにつながる支援や取り組みについて、ミーティングや運営推進会議等を通じて見出してほしい。
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、買い物の支援したり、床屋の祭に支払ったりしている。管理できない方は、ホームでの立替払いしている。					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近隣交流、天気の良い日は、散歩をしたり、施設や駅舎を訪れて地域の方と関わったりしている。又お弁当を持ってドライブへ出かけたりしている。車椅子の方も法人の大型車により対応している。			地域の商店やスーパーに買い物に出かけ、近隣の駅舎を訪れたり散歩などで日常的に外出している。 また、法人のバスを利用し、車イスの方も含め皆で出かけられるよう配慮している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居前に行っていた場所や、お墓参りなどもご家族様と相談して対応している。自宅が心配な利用者様は、ご家族の同意を得て自宅へが外出支援している。普段行けない所にも行事起案書に取り入れ外出する機会をつくりだしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	離れて暮らしているご家族様や、親戚、友人などから連絡いただけるよう働きかけている。利用者様が電話を掛けたい場合も、その都度誰に掛けたいのか伺い、職員が間に入ってプライバシーにも配慮して対応している。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族からの外出、外泊の希望があれば随時対応しているほか、訪問の受入れができるよう対応している。利用者や訪問者が有意義な時間を過ごせるよう配慮している。居心地よすすごせるよう時には方言を使用して工夫している。					
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動障害を抑えるのではなく、なぜそういった行動になってしまったのか、職員で話し合い薬に頼ったり、身体拘束を行わないように支援するよう周知徹底している。また、医師との日頃から連絡を図り助言指導して頂いている。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関にセンサーなどを設置せず、職員間の声掛けで、ホームにて見守り、を徹底している。又近隣住民とも関係を密にして利用者の安全で自由な暮らしを支援している。			日中は玄関に鍵をかけず、職員間の声かけや見守りを徹底して利用者の外出を把握しているほか、トイレの使用状況をランプの点灯で把握している。 また、近隣住民や駅舎、レストランなどにも協力を呼びかけ、地域全体で利用者を見守っている。	○	テラスの窓に前回調査時にはなかったダイヤル式の鍵を取り付けているため、見守りの工夫により一時的とするなど、鍵をかけない方法を検討してほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者様の見える所で作業したり、自室に居る方は、さりげなく定期的に職員が訪室して話しあいになって様子を伺ったりしている。夜間は定時に巡回しているほか、物音がした時は、瞬時に対応している。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗濯、入浴を自分で行なえる方は、見守り確認で洗濯等を扱っている。他利用者の洗剤等は、直接目の見えない所に保管している。浴室には錠を常に掛けて、誤飲等の危険を防ぐ管理をしている。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告を徹底し、事故の未然防止を検討しながら、職員間で統一している。又事故でも速やかに家族、主治医、に連絡し、行政に報告し適切に対応している。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	全職員が普通救命講習を受講している。又、看護師に指導のもと定期的に応急処置の対応の勉強会等行なっている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対応マニュアルを作成し、利用者と共に避難訓練を実施している。また運営推進会議を通して地域住民の協力を呼びかけ夜間を想定した訓練なども行いながら利用者の安全確保に努めている。			消防計画に基づいて年2回の避難訓練を実施し、近隣住民の参加と協力を得ながら夜間を想定した訓練も行うなど、災害時に備えている。	○	避難訓練時に近隣住民の役割を明確にすることで、実際の緊急災害時でもスムーズ行動できるよう実効性のある訓練の実施を検討してほしい。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒のリスクや冬期に発症しやすい「うつ」のリスクなど一人一人の家族に面会時や、電話で詳しい状況を報告説明して、抑圧感のない暮らしができるよう対応策を話し合っている。					
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さな事でも変化があれば管理者へ報告する体制をとっており、必要に応じて主治医へ相談している。個人の介護記録書へ変化の記録をして全職員が把握できるように徹底している。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服状況を把握して、確実に服薬できるように職員が直接手渡しし、確認し誤薬防止に努めている。主治医とも連絡を密にしている。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のテレビ体操などを取り入れ、車椅子の方もできる体操や、散歩などの運動も行っている。食事に関しても食物繊維を多く取り入れ、果物、水分補給も一人一人記録し便秘予防に努めている。					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後うがいや、歯磨きの声掛け誘導、介助にて行っている。就寝時は入れ歯をポリデント消毒し清潔を保ち、起床時には、声掛け誘導、介助している。又嚥下の低下を防ぐために口腔体操を利用者の状態の応じ行っている。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や、水分摂取状況をこまめにチェックし記録している。利用者の体調を全職員で把握して十分な食事が取れるよう支援している。同事業所内の栄養士に定期的に献立をチェックしてもらい栄養バランスを考えている。			前回評価結果を受けて系列事業所の栄養士から定期的に献立をチェックしてもらい、カロリーや栄養バランスが偏らないよう配慮している。 また、食事や水分摂取量をこまめに記録して利用者の体調を把握し、職員間で共有しながら支援している。		
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを作成しているほか、洗面所や、トイレ等の常に目が届く場所にうがい手洗いの方法を提示している。手の触れるところや、床等毎日消毒掃除している。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為、調理台、食器棚、冷蔵庫等消毒、殺菌掃除している。食材の新鮮なものをこまめに買い新鮮な食材を使用している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>								
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には手すりやスロープもあり障害となるものは置いておらず、誰でも安全に出入り出来るようになっている。玄関には腰をかける椅子も置いてある。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には利用者の作品を飾り生活感や季節感を作り出して居心地の良さや、活力を引き出している。又トイレは時間帯が集中する事を配慮して3ヶ所設置している。ホールにはランプの点灯により利用者状況が把握できるよう工夫している。				洗面に利用者一人ひとりのタオルを準備し、トイレを3ヶ所設置してランプの点灯により使用状況を把握するなど、快適な環境づくりに努めている。 また、利用者の重度化に伴い、車イスでも動きやすいよう食堂やホール、脱衣所の配置を変えている。	
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビやソファがあり、固め、軟らかめと利用者に合ったソファを設置している。又独り居室でテレビを観たりと思い思いに過ごせるよう努めている。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、冷暖房を完備しており、本人が家庭で使用していた家具や、日用品を持ち込み、あまり御家庭と変わらない空間を提供している。				個人差はあるが、自宅で使い慣れたベットを持ち込む方や家族の写真を飾る方など、それぞれの生活スタイルに合わせた生活空間づくりを支援している。	
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日に何回か居室と廊下の温度差の確認、調整している。掃除の時は、換気して行っている。又24時間の換気扇を設備している。					
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は身体機能に合わせた居室（トイレに近い、食堂に近い）を選んで頂き、食堂の席なども利用者の状況に合わせて変えたりしている。自立した生活を送って頂いている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に見守りを欠かさず自立できる方向に向ってもらうように声掛けし誘導している。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周には物は置かず天気の良い時は散歩できるように、途中で腰掛けできるように長椅子を置いてある。					

※  は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様、職員、ご家族様一人一人がいつも笑顔で、仲良く楽しく過ごせるような環境や雰囲気を創りだすこと。地域の方ご家族様の方を普段着で迎え入れるホームであることで、外部から訪問しやすい雰囲気である。定期的に近隣のボランティアの方が、孫さんを連れて来所してくださり、開けたホームである。利用者様も心待ちにしており、自然な笑顔を引き出せている。利用者様の外出や、病院受診も利用者、ご家族、主治医と連携を図り、積極的に行っている。利用者様が、他法人行事や、町民祭等にも積極的に参加し地域にも出向くよう支援している。利用者様の人格を尊重し、人生の先輩として、常に教えて頂くという気持ちで職員全員が利用者様と接している。申し送り、記録を全職員に徹底させている。サービス質の向上の為、外部、内部研修や勉強会等も行なっている。